

いま、学校に行けない子におきている、 困難な問題



いこまクリニック 生駒 季隆

現在の学校での最大の問題もちろん、いじめの問題です。しかしながら、最近、いじめは変な話ですが不登校という、命を守る究極の解決法がでてきたようです。まあ、極端な話、命より大事な学校はあるわけないというわけです。それよりも、私が、危機感を感じているのは、インターネット依存の問題です。私のクリニックにも、心配そうな母親と、ゲームをしている息子がよく初診で座っています。順番になると、診察室に入りますが、子どもはゲームをやめません。母親は一応「やめなさい」と注意はしますが、子どもは無視します。

その後、診察に入るわけですが、どの学校？何年何組？普通科？好きな勉強は何？嫌いな勉強は？好きな漫画は何？と子どもが答えられる質問をしていきます。母親に発言は極力させないようにします。でも意外と、お母さんも興味深く、わが子の答えを聞いています。時には、驚いた表情をしたりしながら。その場の空気が和んできたら、いよいよ本題の始まりです。イライラ虫はいる？怒りんぼ虫はいる？怖がり虫はいる？心配虫は？うっかり虫は？その子が、学校に行けないどんな困難を抱えているのかを聞き出していきます。

一昔前は、これでほぼ仕事は終わりでした。でも今はもうひとつ、学校に行けない子にしなければならぬ質問が増

えました。「朝、おなかが痛くない？頭は痛くない？」「起こされてすぐおきる？」「ふらふらしない？」どれかが当てはまれば、次の質問は、「寝る前何してる？」です。ゲーム、動画、SNS、曲者は、「音楽を聴いているだけ」「勉強の調べ物をしている」(ちゃんと、辞書をひかんかい!)などなどが現れてきます。「それが原因だよね」。子どもたちも、なんとなくはわかっているんです。でも、認めたくない。「でもこのまま続けたら大変な事になるよ。まず、ゲームする時間帯を変えよう。寝る前だけはやめよう。そして少しずつ時間を減らしていこうね」。子どもたちは、すこしほっとした表情をうかべます。でも、本当の戦いは、今始まったばかりなのです。実際、すんなりと治療が進む事はほぼありません。この問題は予防がとても大事だと思います。小学生は、1日30分。中学生は1日45分とか、医師会からも、なにかを、発信していく必要があるのではないのでしょうか？